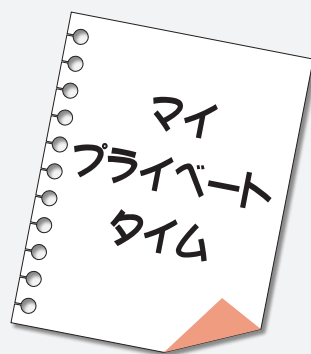


「今日より明日、明日より明後日」

とだ 市長(埼玉県) じんほくに 神保国男

Kunio Jinbo



50年前の今

わがまち戸田市は今年市制施行50周年を迎えます。50年前は、田や畑が広がるのかな、人口5万5000人の田舎まちでした。それが昭和60年の埼京線の開通により、都心への利便性が高まり、急速に都市化が進み、今や人口13万5000人になりました。若い世代中心にまだしばらく人口増加が予測されています。

私の50年前は、司法試験の受験勉強に明け暮れる毎日でした。在学中は陸上部に所属し、グラウンドで走ったり跳んだりの日々を送っていましたが、卒業と同時に弁護士を目指し、司法試験のための勉強を始めました。弁護士になろうと思ったのは、私の家は建設資材の販売業を営んでいたのですが、売掛金の支払いとして受け取った手形が不渡となり、父親が困って弁護士に依頼して代金を回収できたのを見たのが切っ掛けでした。弁護士がとても格好よく見えて、自分も人助けのできる人間になろうと考えました。それからは、六法全書と法律書とにらめっこの毎日でした。大学の司法試験を目指す仲間たちと、一つの部屋で朝から晩まで勉強づめの日々を送り、運良く2年間で合格できました。

弁護士から県議そして市長になって

昭和45年に弁護士登録し、5年間東京の法律事務所勤務弁護士として修業しました。その間、東京デイズニールランド建設地の売買契約書の作成などにも携わりました。その時はデイズニールランドがこんな人気のあるアミューズメントになることなど想像もしていませんでした。その後さいたま市で独立開業し、約10年間一生懸命弁護士活動を続けました。その間、民事事件、刑事事件、少年事件、行政事件、労働事件などさまざまな事件を扱いました。紛争を法的に解決することで、社会の役に立っているとの自負もありました。しかし、同じような事案が次々に起こることに疑問を感じるようになりました。例えば企業の倒産を法律に基づき整理するよりも、融資制度の充実や中小企業支援策を充実することにより倒産を防ぐことが重要ではないのか。人々の生活を支えるためには制度を作ることに必要と考え、県議会議員に立候補することにしました。初めての選挙は落選しましたが、2度目で当選し、埼玉県民の生活向上のため10年間奮闘しました。県議になってからは、弁護士の経験を生かし、産業支援策や少年非行防止対策などさまざまな取り組みました。また、頭の良い人、飲む



戸田市市制施行当時の様子(昭和41年)

打つ遊ぶのが好きな人、利権を貪る人など多彩な人たちとの出会いもありました。立派な人格者との縁は今も続いています。その後県議会が権力争いに明け暮れるようになったことに嫌気がさしたことで、自分の生まれ育ったまちをもっと快適でおしゃれなまちにしようと市長選挙に立候補しました。こちらも初戦敗退しましたが、2度目で当選し、今日まで18年間、市長として365日時間に追われる日々を過ごしています。子育てするなら戸田市、立派な人間が育つ戸田市が売りです。日本全体では人口減少が進んでいますが、本市はまだ



若い世代を中心に人口増加を続けている戸田市（2007年11月撮影）

人口増加を予測しています。しかし、高齢化は急速に進むので、元気な高齢者を増やすことにも積極的に取り組んでいます。

人生生涯小僧のころ

6年前に妻を肺がんで亡くしました。以来息子と暮らしています。掃除、洗濯、朝食の用意は私がやります。掃除は土日の空いた時間にやります。夕食は、家で食べるときは近所に住んでいる姉が作ってくれます。



毎朝の体操で使用しているダンベル

しっかりと仕事をするためには、まずは自分自身の健康維持増進が大切と、8年前に断酒しました。毎朝4時30分に起床し、ダンベル体操、ストレッチで約1時間身体を動かします。これはもう20年近く続いています。たまの空いた時間にクラシックやジャズなどのコンサートに行きます。サラ・ブライトマンの来日コンサートには必ず行きます。4月に来日するアンドレア・ボチェッリのコンサートに行く予定です。映画、演劇、絵画鑑賞もしています。007最新作「スペクター」、スター・ウォーズ「フォースの覚醒」を見ました。また、東野圭吾を読み、推理し、頭の体操をします。新作「人魚の眠る家」は脳死について深く考

えさせられました。毎月読んでいるのは「選択」「致知」「大前研一通信」です。大前研一さんの本は全部（日本語のもの）読みます。国際情勢やこれからの展望など勉強させていただいています。気持ちが沈んだ時は、「致知」を読んで人間学を学び、元気を出しています。

最近、同期の弁護士が「争わない生き方」が道を拓くという本を上梓しました。そうです。この世の中の課題は、争って決着をつけるのではなく、譲り合って解決すべきと思います。市民の意見の違いも、よく説明を尽くし、互いに譲歩し、妥協点を見つけることが大切です。また先日は、若い時から一生懸命仕事をして稼いでいた別の同期の弁護士から手紙をいただきました。現在まで恙なく人生を過ごせたことに感謝して、世のため人のために「ポイント還元」をしますと書いてありました。みんな立派な人間として生きていると感服しています。そして、私自身は「人生生涯小僧のころ」を生きる指針にしています。これは、奈良県吉野山金峯山寺、大峯千日回峰行を満行した塩沼亮潤大阿闍梨のことばです。大阿闍梨になっても小僧のころのまま、謙虚に「今日より明日、明日より明後日」といつも最高の自分になれるように行を続けておられます。心に染み入る教えです。